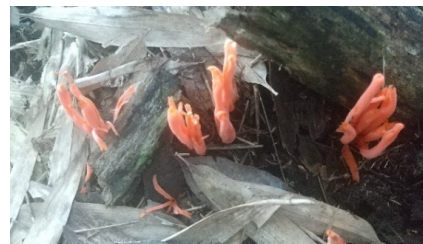


みんなのデータサイト 2024キノコ測定プロジェクト 測定結果のまとめ



みんなのデータサイト旬のものプロジェクトチーム
大沼章子（C-ラボ）

●当プロジェクトは「12人の絵本作家による応援カレンダープロジェクト」（2024年度）
から寄付をいただき実施しました



はじめに

みんなのデータサイトは、東京電力福島第一原子力発電所事故後、全国の放射能測定室（現在24測定室）で測定された食品・土壌・その他環境試料中の放射性セシウムの測定結果を、ウェブサイト「みんなのデータサイト」（<https://minnanods.net/>）で公開し、検索も可能にしています。

特に土壌については、東日本17都県土壌ベクレル測定プロジェクトの結果をまとめ『図説・17都県放射能測定マップ+読み解き集（現在は増補版）』として発行。測定結果の解説などを詳しくお知らせしています。

食品の放射能濃度については、一般食品に比べて山野の食材が高止まり状況にあることから、その実態を明らかにし、無用な被ばくを避けるため、山野の食品について旬のもの測定プロジェクトに取り組んできました。

2014年春 「しいたけ・たけのこ広範囲測定プロジェクト」

2019年春 「全国たけのこ測定プロジェクト」

2020年秋 「ネット購入キノコ測定プロジェクト」

2021年以降 毎年継続的に取り組む

春は「タケノコ・山菜測定プロジェクト」

秋は「キノコ測定プロジェクト」

福島原発事故から13年目の2024年秋も、キノコの山野の汚染状況を明らかにするために、「2024キノコ測定プロジェクト」に取り組ましたので、測定結果を報告します。

みんなのデータサイト 2024キノコ測定プロジェクト 実施計画の概要

期間：2024年6月～11月

調査対象：放射能汚染地に指定された17都県（＊）に生育する野生キノコ

（＊）青森県・岩手県・秋田県・宮城県・山形県・福島県・茨城県・栃木県・群馬県
・新潟県・埼玉県・山梨県・東京都・千葉県・神奈川県・長野県・静岡県

試料採取：ネット購入、店頭購入、自家採取や縁故によって採取。

なお、各地のキノコ同好会の皆様のご協力もお願いしましたが、残念ながら、
昨年と同様に、2024年も天候の影響で採取が困難だったという結果に終わりました。

参加測定室と放射性セシウム測定装置（6測定室）：

- ・ 那須希望の砦：ATOMTEX社製AT1320A
- ・ 未来につなげる・東海ネット 市民放射能測定センター（C-ラボ）：日立ALOKA社製 CAN-OSP-NAI
- ・ はかるなら（奈良・市民放射能測定所）：ATOMTEX社製AT1320A
- ・ 阪神・市民放射能測定所：非電化工房製 CSK3i
- ・ 認定NPO法人 ふくしま30年プロジェクト：ゲルマニウム半導体検出器核種分析装置 PGT製 IGC16190
- ・ NPO法人 みんなのデータサイト福島ラボ：ゲルマニウム半導体検出器核種分析装置 PGT製 IGC16190

みんなのデータサイト 2024キノコ測定プロジェクト 調査実施の概要

- 調査期間：2024年3年～2025年1月（計画期間外のものも含めて解析）
- 調査地域：17都県のうち東京都・静岡県を除いた以下の15都県
青森県・岩手県・秋田県・宮城県・山形県・福島県・茨城県・栃木県・群馬県
・埼玉県・山梨県・千葉県・神奈川県・新潟県・長野県
- 調査キノコと件数：名称の明らかなキノコは39品目、名称不明キノコ3件を含めて測定件数は177件
- 乾燥キノコの濃度表示：177件のうち42件が乾燥キノコであったため、厚生労働省が示す重量変化率（*）にしたがって生重量あたりの濃度に換算した値（生換算値）としました。

*：食安基発0315第7号2012年3月15日「食品中の放射性物質の試験法の取扱いについて」

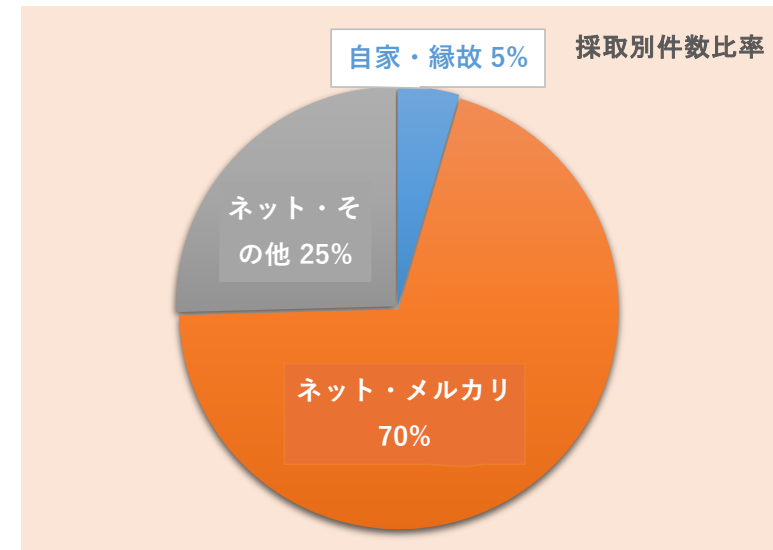
https://www.mhlw.go.jp/shinsai_jouhou/dl/shikenhou_120319.pdf

- 検出下限値：検出器の種類・性能・設置場所の環境など測定装置ごとに異なり、キノコの供試量や測定時間によって異なります。検出下限値未満は、表記・統計処理ともに数値を「0」として処理しました。セシウム-137の検出下限値は0.3～76.9 * Bq/kgの範囲でした。

*当該キノコ（乾燥コウタケ）は試料量が少ない上に高濃度だったため測定時間を短くした。結果として検出下限値は76.9 Bq/kgであった。

みんなのデータサイト 2024測定キノコプロジェクト 試料の採取（入手）方法

採取方法	件数	比率（％）
ネット	169	95
自家・縁故	8	5
店頭	0	0
全体	177	100



採取したキノコは、山野に生育する野生のキノコ177件で、ネット購入の169件（95％）と自家・縁故の8件（5％）で、店頭での購入品はありませんでした。なお、右図に示したように、95％がネット購入ですが、メルカリによるものが124件（70％）と多く、その他のネット購入は45件（25％）でした。

みんなのデータサイト 2024測定キノコプロジェクト 野生キノコの菌種別放射性セシウム濃度測定結果

菌種	件数	検出件数	検出率 (%) *1	最小値 (Bq/kg) *2	最大値 (Bq/kg)	中央値 (Bq/kg)	食品基準 超過件数	食品基準 超過率 (%)
菌根菌 *3	160	146	91	0	3182	38.5	42	26
腐生菌	14	4	29	0	21	0.0	0	0
不明 *4	3	1	33	0	13	0.0	0	0
全体	177	151	85	0	3182	32.9	42	24

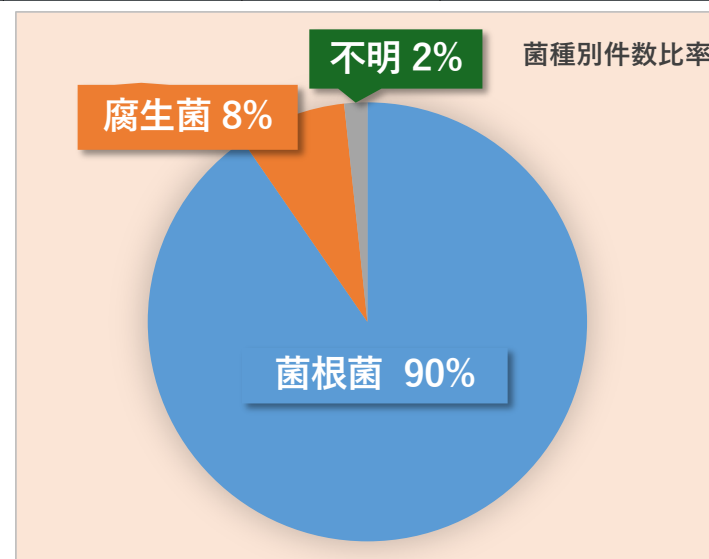
*1 検出下限値以上の濃度（最小値は0.3 Bq/kg）を示す検出件数の百分率

*2 検出下限値未満は「0」とした。

*3 菌根菌のうち42件の乾燥キノコは生換算値を用いた。

*4 名称不明キノコで菌種不明

キノコの測定件数は177件で、151件（85％）に放射性セシウムが検出されました。そのうち、食品基準値を超えたキノコは42件（24％）でした。キノコを菌種別に分類すると、菌根菌が160件（90％）、腐生菌が14件（8％）、名称不明で菌種不明が3件（2％）でした。食品基準値超過は、菌根菌の42件（26％）に見られましたが、腐生菌に基準値超過はありませんでした。菌根菌の方が腐生菌より放射性セシウム濃度が高い傾向にあることは2020年以降のプロジェクトと同様の傾向でした。

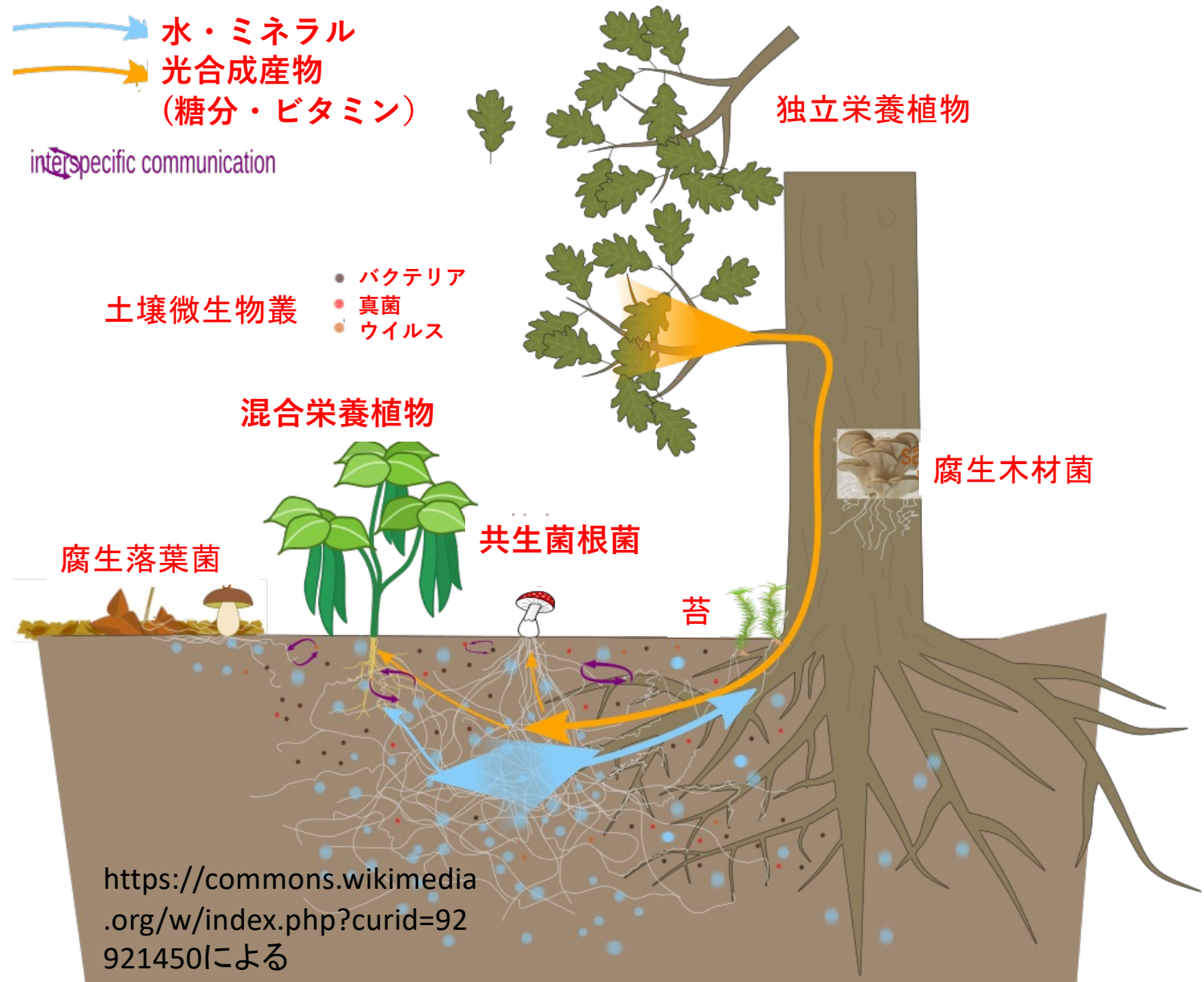


菌根菌の方が放射性セシウム濃度が高い傾向にあるのは、腐生菌との生息状況の違いによる！

事故からの時間の経過とともに、キノコ生息域では、粘土分を含む土壌の方が有機態物質よりも放射性セシウムの蓄積度が大きいいため、土壌に菌糸を伸ばす菌根菌の方が放射性セシウム濃度が高くなる傾向にあると考えられます。

菌根菌：植物の根に共生しているカビ（真菌類）の一種。代表的なのは、アーバスキュラー菌根菌（内生菌根菌で、根の中に入り込んで菌糸を土の中に伸ばす）と、外生菌根菌（菌糸で樹木の根の外側を覆う）。根に取りついた菌根菌は、土壌中に伸びた菌糸で窒素やリンなどの養分を吸収して植物に供給。代わりに菌根菌は植物の光合成産物の糖類などをもろう。

腐生菌：木材や腐葉土など、環境中の有機物を分解して生育する菌類。



みんなのデータサイト 2024キノコ測定プロジェクト 野生キノコの 放射性セシウム濃度

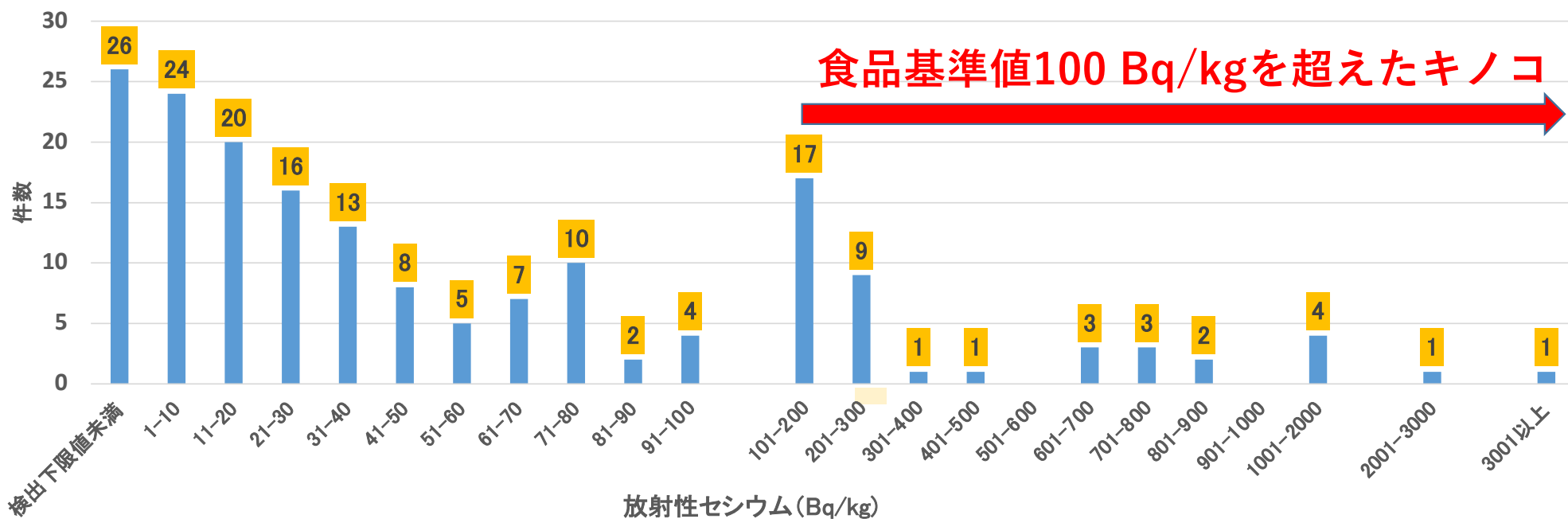
名称の明らかなキノコは39品目で、名称不明キノコを含めて測定件数は177件でした。最大値はコウタケの3182 Bq/kgで、その他、チチタケ・ウラベニホテイシメジ・アカヤマドリ・サクラシメジ・ハナイグチに食品基準値超過があり、全て菌根菌でした。

- *1 検出下限値未満は「0」とした。
 - *2 内36件は乾燥品で生換算値で処理
 - *3 内2件は乾燥品で生換算値で処理
 - *4 全2件は乾燥品で生換算値で処理
 - *5 件数「1」の菌根菌をまとめた。
 - *6 件数「1」の腐生菌をまとめた
- なお、表は測定件数の多いものから記載。

名称	種類	件数	採取法			放射性セシウム(Bq/kg)*1			食品基準 超過件数	食品基準 超過率 (%)
			ネット	自家 ・縁故	店頭	最小値	最大値	中央値		
コウタケ*2	菌根菌	67	65	2	0	17.9	3182	104	35	52
クロカワ	菌根菌	10	9	1	0	1.2	52.0	24.2	0	0
チチタケ*3	菌根菌	12	12	0	0	0.0	871	19.2	3	25
ウラベニホテイシメジ	菌根菌	7	7	0	0	0.0	1071	25.1	1	14
タマゴタケ	菌根菌	7	6	1	0	0.0	91.0	35.8	0	0
アカヤマドリ*3	菌根菌	6	6	0	0	4.8	277	24.3	1	17
サクラシメジ	菌根菌	6	6	0	0	2.3	117	25.8	1	17
ハナイグチ	菌根菌	6	6	0	0	3.0	216	5.1	1	17
マツタケ	菌根菌	6	6	0	0	0.0	38.3	6.4	0	0
ショウゲンジ	菌根菌	5	5	0	0	6.6	29.2	22.3	0	0
ホウキタケ	菌根菌	3	3	0	0	0.0	75.2	3.3	0	0
アミガサタケ*4	菌根菌	2	2	0	0	2.6	8.2	5.4	0	0
クリフウセンタケ	菌根菌	2	2	0	0	5.4	50.0	27.7	0	0
シモフリシメジ	菌根菌	2	2	0	0	91.5	95.5	93.5	0	0
ヌメリイグチ	菌根菌	2	2	0	0	0.0	8.3	4.1	0	0
ハタケシメジ	腐生菌	2	2	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0
ホンシメジ	菌根菌	2	2	0	0	1.0	1.7	0.9	0	0
マイタケ	腐生菌	2	2	0	0	0.0	8.3	4.2	0	0
ムラサキシメジ	菌根菌	2	2	0	0	0.0	3.6	1.8	0	0
ヤマドリタケモドキ	菌根菌	4	4	0	0	0.0	12.8	8.5	0	0
アカモミタケなど各1件9 品目*5	菌根菌	9	8	1	0	0.0	65.6	14.7	0	0
ウスヒラタケなど各1件10 品目*6	腐生菌	10	10	0	0	0.0	20.7	0.0	0	0
名称不明	—	3	0	3	0	0.0	13.4	0.0	0	0
まとめ		177	169	8	0	0.0	3182	32.9	42	24

- *5：他に、アミタケ、アメリカウラベニイロガワリ、イボセイヨウシヨウロ、カワムラフウセンタケ、チリメンチタケ、フウセンタケモドキ、ムレオオフウセンタケ、ルリハツタケ、
- *6：他に、クリタケ、ナラタケ、ヌメリスギタケ、ヒラタケ、ブナシメジ、ブナハリタケ、ムキタケ、エノキダケ、ナメコ

みんなのデータサイト 2024測定キノコプロジェクト 野生キノコの放射性セシウムの濃度分布図

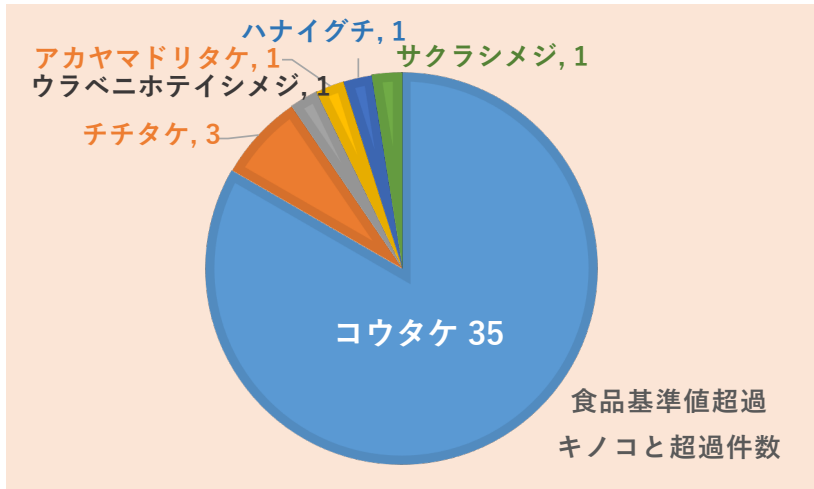


放射性セシウム濃度が検出下限値以上のキノコは151件で、うち42件は食品基準値を超えていました。現在は、放射性セシウムのうち半減期の短いセシウム-134が事故直後の百分の1まで減少しています。セシウム-134が検出された20件のうち18件は食品基準値超過品で、明らかに福島原発事故の影響を受けているといえます。半減期の長いセシウム-137が検出されたキノコには、福島原発事故の影響と共に、過去の大気圏内核実験の影響も含まれていると考えられます。

みんなのデータサイト 2024キノコ測定プロジェクト 食品基準値を超えた野生キノコ一覧

食品基準値を超えたキノコは6品目・42件（ネット購入41件、縁故1件）で、全て菌根菌でした。最大値は、福島県二本松市の縁故品のコウタケで、3182 Bq/kgでした。採取地が県名まで出荷規制の確認ができないキノコが30件あり、そのうちの28件はメルカリ購入でした。メルカリ購入は合計37件で、残り9件のうち8件は出荷制限無し、1件は出荷規制有りでした。メルカリ以外のネット購入は4件で、出荷制限無しと不明が各2件でした。なお、最大値を示したコウタケは出荷制限有りの採取地でしたが、汚染状況確認のための依頼測定品でした。

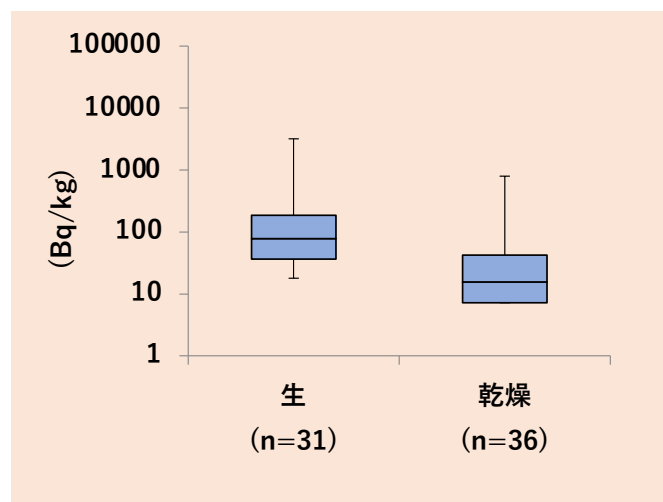
- *1：「ネット・メ」はメルカリ購入、「ネット・他」は、メルカリ以外のネット購入。
- *2：乾燥品は生換算値を記載



名称	採取法*1	採取地		放射性セシウム (Bq/kg)*2	菌種	出荷規制の確認
コウタケ	縁故	福島県	二本松市	3182	菌根菌	有
乾燥コウタケ	ネット・メ	岩手県		2001	菌根菌	不明
コウタケ	ネット・メ	福島県	福島市	1854	菌根菌	有
乾燥コウタケ	ネット・メ	不明		1519	菌根菌	不明
コウタケ	ネット・メ	群馬県		1142	菌根菌	不明
ウラベニホテイシメジ	ネット・メ	群馬県		1071	菌根菌	不明
乾燥チチタケ	ネット・メ	千葉県		871	菌根菌	無
乾燥コウタケ	ネット・メ	山形県・福島県	(南会津)	809	菌根菌	不明
乾燥コウタケ	ネット・メ	岩手県		793	菌根菌	不明
乾燥コウタケ	ネット・メ	岩手県		764	菌根菌	不明
乾燥コウタケ	ネット・メ	岩手県		745	菌根菌	不明
乾燥コウタケ	ネット・メ	不明		634	菌根菌	不明
コウタケ	ネット・メ	岩手県		619	菌根菌	不明
乾燥コウタケ	ネット・メ	山形県		613	菌根菌	不明
乾燥コウタケ	ネット・メ	岩手県		495	菌根菌	不明
コウタケ	ネット・メ	福島県	南会津郡南会津町	343	菌根菌	無
アカヤマドリタケ	ネット・他	山形県		277	菌根菌	不明
乾燥コウタケ	ネット・メ	岩手県		263	菌根菌	不明
乾燥コウタケ	ネット・メ	福島県	(桧枝岐)	241	菌根菌	無
チチタケ	ネット・メ	栃木県		232	菌根菌	不明
乾燥コウタケ	ネット・メ	新潟県		228	菌根菌	不明
コウタケ	ネット・メ	長野県	諏訪郡下諏訪町	226	菌根菌	無
乾燥コウタケ	ネット・メ	栃木県		220	菌根菌	不明
ハナイグチ	ネット・メ	群馬県		216	菌根菌	不明
コウタケ	ネット・メ	山形県		212	菌根菌	不明
乾燥コウタケ	ネット・メ	岩手県		200	菌根菌	不明
乾燥コウタケ	ネット・メ	岩手県	(久慈)	195	菌根菌	無
コウタケ	ネット・他	福島県	(奥会津)	192	菌根菌	無
コウタケ	ネット・メ	山梨県		179	菌根菌	不明
乾燥コウタケ	ネット・メ	岩手県		177	菌根菌	不明
コウタケ	ネット・メ	不明		166	菌根菌	不明
乾燥コウタケ	ネット・メ	岩手県		161	菌根菌	不明
コウタケ	ネット・メ	宮城県	柴田郡川崎町	151	菌根菌	無
乾燥コウタケ	ネット・メ	岩手県		143	菌根菌	不明
乾燥コウタケ	ネット・メ	岩手県		137	菌根菌	不明
乾燥コウタケ	ネット・メ	岩手県		129	菌根菌	不明
チチタケ	ネット・他	福島県	南会津郡南会津町	126	菌根菌	無
コウタケ	ネット・メ	福島県	(南会津)	118	菌根菌	無
サクラシメジ	ネット・メ	岩手県		117	菌根菌	不明
乾燥コウタケ	ネット・他	岩手県		114	菌根菌	不明
コウタケ	ネット・メ	秋田県	湯沢市	104	菌根菌	無
乾燥コウタケ	ネット・メ	山形県		103	菌根菌	不明

みんなのデータサイト
2024キノコ測定プロジェクト
全測定数の38%を占めるコウタケ
の放射性セシウム濃度

コウタケの食品基準値超過率は、生42%、乾燥品61%で、両者をまとめた基準値超過率は52% (35/67) でした。コウタケの生と乾燥品の放射性セシウム濃度には統計的な有意差 (危険率5%) はありませんでした。なお、コウタケの食品基準超過率は、コウタケ以外のキノコの超過率6% (7/110) と比べて、圧倒的に高い傾向にありました。



産地	生・乾燥	件数	採取法			最小値 (Bq/kg)	最大値 (Bq/kg)	中央値 (Bq/kg)	食品基準	
			ネット	縁故	店舗				超過件数	超過率(%)
岩手県	生	4	4	0	0	34.1	619	51.8	1	25
	乾燥	21	21	0	0	37.8	2001	143	14	67
福島県	生	11	10	1	0	32.2	3182	91.6	5	45
	乾燥*2	1	1	0	0	—	—	241	1	100
長野県	生	4	4	0	0	17.9	226	29.3	1	25
	乾燥	5	5	0	0	46	75.5	52.5	0	0
山梨県	生	4	4	0	0	19.5	179	44.2	1	25
	乾燥	1	1	0	0	—	—	49	0	0
山形県	生	1	1	0	0	—	—	212	1	100
	乾燥*1	3	3	0	0	103	809	613	3	100
青森県	生	2	2	0	0	19.5	81.4	50.5	0	0
	乾燥	0	—	—	0	—	—	—	—	—
宮城県	生	1	1	0	0	—	—	151	1	100
	乾燥	0	—	—	0	—	—	—	—	—
栃木県	生	0	—	—	0	—	—	—	—	—
	乾燥	1	1	0	0	—	—	220	1	100
群馬県	生	1	1	0	0	—	—	1142	1	100
	乾燥	0	—	—	0	—	—	—	—	—
秋田県	生	1	1	0	0	—	—	104	1	100
	乾燥	1	1	0	0	—	—	76.5	0	0
新潟県	生	0	—	—	0	—	—	—	—	—
	乾燥	1	1	0	0	—	—	228	1	100
茨城県	生	1	1	1	0	—	—	77.9	0	0
	乾燥	0	—	—	0	—	—	—	—	—
不明	生	1	1	0	0	—	—	166	1	100
	乾燥	2	2	0	0	634	1519	1076	2	100
まとめ	生	31	29	2	0	17.9	3182	77.9	13	42
	乾燥	36	36	0	0	37.8	2001	140	22	61
	計	67	65	2	0	17.9	3182	104	35	52

*1：含山形県・福島県(南会津)産 (809 Bq/kg)

*2：含長野県・山梨県産 (50.5 Bq/kg)

なお、乾燥品は生換算値で示した。

みんなのデータサイト 2024キノコ測定プロジェクト
野生キノコの採取地別放射性セシウム濃度

採取地	件数	検出件数	検出率 (%) *1	最小値 (Bq/kg) *2	最大値 (Bq/kg)	中央値 (Bq/kg)	食品基準超過 件数	食品基準 超過率 (%)
福島県	20	20	100	10.0	3182	84.2	7	35
岩手県	48	42	88	0.0	2001	62.9	16	33
群馬県	6	6	100	4.1	1142	119	3	50
千葉県	2	2	100	12.8	871	442	1	50
山形県*3	12	10	83	0.0	809	30.5	5	42
栃木県	5	2	40	0.0	232	0.0	2	40
新潟県	4	3	75	0.0	228	1.9	1	25
長野県*4	38	31	82	0.0	226	16.0	1	3
山梨県	17	14	82	0.0	179	25.9	1	6
秋田県	6	3	50	0.0	104	7.2	1	17
青森県	5	4	80	0.0	81.4	19.5	0	0
埼玉県	2	2	100	2.6	65.6	34.1	0	0
宮城県	1	1	100	—	—	241	1	100
茨城県	1	1	100	—	—	77.9	0	0
神奈川県	1	1	100	—	—	8.2	0	0
不明	9	9	100	1.2	1519	39.3	3	33
まとめ	177	151	85	0.0	3182	32.9	42	24

*1 検出下限値以上の濃度を示す検出件数の百分率

*2 検出下限値未満は「0」とした。

*3:含山形県・福島県(南会津)産乾燥コウタケ (809 Bq/kg)

*4:含長野県・山梨県産乾燥コウタケ (50.5 Bq/kg)

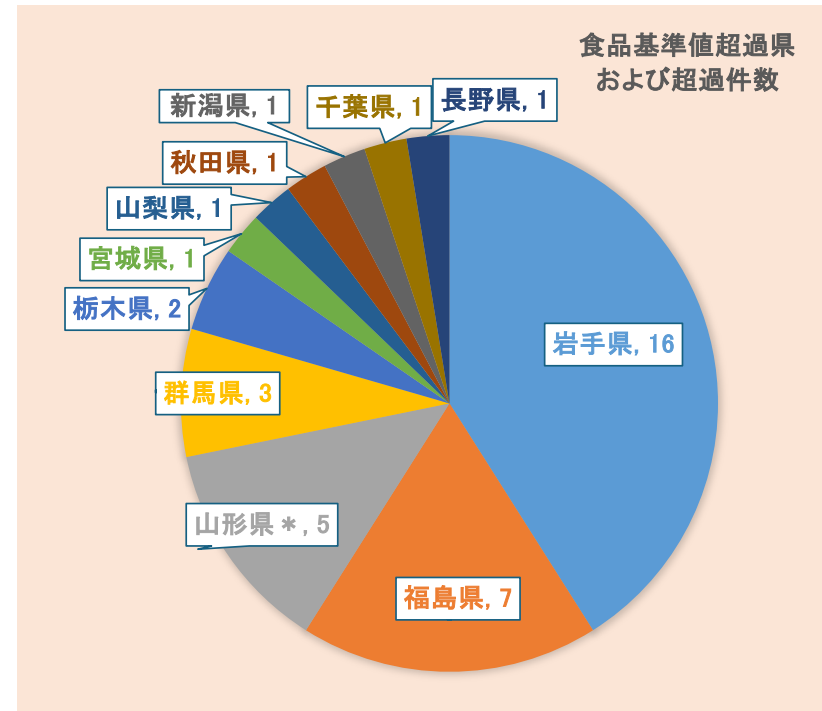
なお、表は最大値の大きいものから記載。件数「1」のキノコの放射性セシウム濃度は中央値欄に示した。

放射能汚染地に指定された17都県のうち、東京都と静岡県を除く15県のキノコを177件採取しました。その内151件（85%）のキノコに放射性セシウムの検出がみられました。食品基準値を超えたキノコは、青森県・埼玉県・茨城県・神奈川県を除く11県にわたり、全調査キノコの24%（42/177）でした。中央値での基準値超過は群馬県と千葉県でした。

みんなのデータサイト 2024キノコ測定プロジェクト
食品基準値を超えた野生キノコの採取地

産地	食品基準超過 件数	最大値 (Bq/kg)	中央値 (Bq/kg)
岩手県	16	2001	197
福島県	7	3182	241
山形県*	5	809	277
群馬県	3	1142	1071
栃木県	2	232	226
宮城県	1	—	151
山梨県	1	—	179
秋田県	1	—	104
新潟県	1	—	228
千葉県	1	—	871
長野県	1	—	226
不明	3	1519	634
まとめ	42	3182	227

*表は超過件数の多い県から記載。件数「1」の場合、放射性セシウム濃度は中央値欄に示した。



食品基準値を超過したキノコは、採取地が11県にわたり、最大値は福島県産の3182 Bq/kgでした。また、複数の基準超過品が見られた産地の中央値は、群馬県1071 Bq/kg、山形県・福島県・栃木県・岩手県で277・241・226・197 Bq/kgでした。福島原発事故によって放出された放射性セシウムの土壌分布を反映したもので、これら野生キノコの測定結果は、広域な汚染の広がりを示しています。

林野庁：きのこや山菜の出荷制限等の状況（2025年1月30日確認）

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/tokuyou/kinoko/syukkaseigen.html>

<u>青森県（令和4年9月20日更新）</u>	<u>岩手県（令和6年2月7日更新）</u> *	<u>宮城県（令和6年12月25日更新）</u> *	<u>秋田県（平成25年6月16日更新）</u> *
<u>山形県（令和4年7月4日更新）</u> *	<u>福島県（令和6年6月4日更新）</u> *	<u>茨城県（令和6年4月11日更新）</u>	<u>栃木県（令和6年12月25日更新）</u> *
<u>群馬県（令和5年5月26日更新）</u> *	<u>埼玉県（平成24年11月21日更新）</u>	<u>千葉県（平成29年2月15日更新）</u> *	<u>神奈川県（平成30年3月28日更新）</u>
<u>新潟県（令和元年7月5日更新）</u> *	<u>山梨県（平成24年10月26日更新）</u> *	<u>長野県（令和2年6月18日更新）</u> *	<u>静岡県（平成26年10月7日更新）</u>

東京都にはキノコや山菜に出荷制限が出ていないので、上表にはありません。

赤字は「野生きのこに出荷制限あり」で、2025年2月2日現在13県に出ています。

*印は、2024キノコ測定プロジェクトで、食品基準値超過品があった県を示します。

参考) 野生きのこ出荷制限状況 (2025年1月末現在)



きのこ (野生のもの)

福島県

地域	措置の状況	備考
麻生町及び中通りの全市町村、喜多方市、磐前町、磐梯町、会津坂下町及び佐田町	出荷制限	一部解除(福島県定める出荷・検査方針に基づく非破壊検査により基準値を下回ったため、ならたけ、むきたけに限る。)
昭和村	出荷制限	一部解除(むきたけ、まいたけ、くりたけ、なめこ及び福島県定める出荷・検査方針に基づく非破壊検査により基準値を下回ったため、ならたけに限る。)
下郷町	出荷制限	一部解除(福島県定める出荷・検査方針に基づく非破壊検査により基準値を下回ったため、ならたけに限る。)
会津若松市	出荷制限	一部解除(むきたけ、くりたけ及び福島県定める出荷・検査方針に基づく非破壊検査により基準値を下回ったため、ならたけに限る。)
只見町	出荷制限	一部解除(ならたけ、ぶらぼりたけ、なめこ、むきたけ、くりたけ、まいたけ及びたけに限る。)
会津美里町	出荷制限	一部解除(むきたけ及び福島県定める出荷・検査方針に基づく非破壊検査により基準値を下回ったため、ならたけに限る。)
西会津町	出荷制限	一部解除(まいたけ、なめこ、むきたけ、くりたけ及び福島県定める出荷・検査方針に基づく非破壊検査により基準値を下回ったため、ならたけに限る。)
三島町	出荷制限	一部解除(まいたけ及び福島県定める出荷・検査方針に基づく非破壊検査により基準値を下回ったため、ならたけに限る。)
磐前町	採取制限	一部解除(福島県定める出荷・検査方針に基づく非破壊検査により基準値を下回ったため、ならたけ、むきたけに限る。)
いわき市	採取制限	
磐梯町	採取制限	



きのこ (野生のもの)

宮城県

地域	措置の状況	備考
仙台市	出荷制限	一部解除(宮城県定める出荷・検査方針に基づく非破壊検査により基準値を下回ったため、ならたけに限る。)
気仙沼市	出荷制限	一部解除(宮城県定める出荷・検査方針に基づく非破壊検査により基準値を下回ったため、ならたけ、むきたけ、くりたけに限る。)
栗原市	出荷制限	一部解除(宮城県定める出荷・検査方針に基づく非破壊検査により基準値を下回ったため、ならたけ、むきたけ、くりたけに限る。)
大崎市	出荷制限	一部解除(宮城県定める出荷・検査方針に基づく非破壊検査により基準値を下回ったため、ならたけに限る。)
登米市	出荷制限	
村田町	出荷制限	
南三陸町	出荷制限	

岩手県



きのこ (野生のもの)

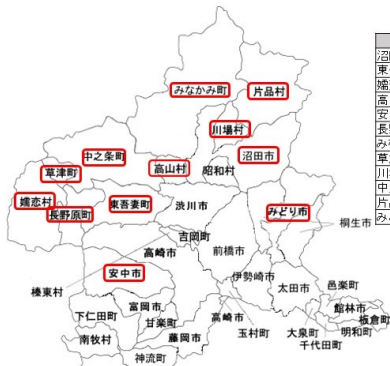
地域	措置の状況	備考
一関市	出荷制限	
平泉市	出荷制限	
陸前高田市	出荷制限	
釜石市	出荷制限	
奥州市	出荷制限	
大船渡市	出荷制限	
金ヶ崎町	出荷制限	
遠野市	出荷制限	
住田町	出荷制限	



きのこ (野生のもの)

山形県

地域	措置の状況	備考
小国町	出荷自粛	ナメコ、クリタケ、トンビマイタケ、ムキタケ、マイタケ、ナラタケに限り解禁
山形市	出荷制限	



きのこ (野生のもの)

群馬県

地域	措置の状況	備考
沼田市	出荷制限	
東吾妻町	出荷制限	
碓氷村	出荷制限	
高山村	出荷制限	
安中市	出荷制限	
長野原町	出荷制限	
みなかみ町	出荷制限	
草津町	出荷制限	
川場村	出荷制限	
中之条町	出荷制限	
片品村	出荷制限	
みどり市	出荷制限	
あどり市	出荷制限	



きのこ (野生のもの)

栃木県

地域	措置の状況	備考
日光市	出荷制限	
真岡市	出荷制限	
那須塩原市	出荷制限	
益子町	出荷制限	
那珂川町	出荷制限	
鹿沼市	出荷制限	
矢板市	出荷制限	
那須町	出荷制限	
大田原市	出荷制限	
塩谷町	出荷制限	
那須烏山市	出荷制限	
茂木町	出荷制限	

参考) 野生きのこ出荷制限状況 (2025年1月末現在)



地域	措置の状況	備考
軽井沢町	出荷制限	
御代田町	出荷制限	
小海町	出荷制限	まつたけに限り解除
南牧村	出荷制限	まつたけに限り解除
佐久市	出荷制限	まつたけに限り解除
小諸市	出荷制限	まつたけに限り解除
佐久穂町	出荷制限	まつたけに限り解除

きのこ (野生のもの)

長野県



地域	措置の状況	備考
富士吉田市	出荷制限	
富士河口湖町	出荷制限	
鳴沢村	出荷制限	

きのこ (野生のもの)

山梨県



地域	措置の状況	備考
湯沢町	出荷制限	一部解除(つたけに限り解除)

きのこ (野生のもの)

新潟県



地域	措置の状況	備考
横瀬町	出荷制限	
新野町	出荷制限	
じきかわ町	出荷制限	
鳩山町	出荷制限	

きのこ (野生のもの)

埼玉県



地域	措置の状況	備考
小山町	出荷制限	
御殿場市	出荷制限	
富士市	出荷制限	
富士吉田市	出荷制限	
裾野市	出荷制限	

きのこ (野生のもの)

静岡県



地域	措置の状況	備考
青森市	出荷制限	ならたけ、むきたけ、くりたけ及びはたけに限り解除
十和田市	出荷制限	なめこ、ならたけ、ぶなはりたけ及びなまきに限り解除
増上町	出荷制限	ならたけ、くりたけ及びくりたけもどきに限り解除
駒ヶ沢町	出荷制限	ならたけ及びむきたけに限り解除

きのこ (野生のもの)

青森県



地域	措置の状況	備考
日立市	出荷制限	
石岡市	出荷制限	
常陸太田市	出荷制限	
鹿嶋市	出荷制限	
北茨城市	出荷制限	
茨城市	出荷制限	
つくば市	出荷制限	
筑西市	出荷制限	
大子町	出荷制限	
水戸市	出荷制限	
茨城町	出荷制限	

きのこ (野生のもの)

茨城県

2024キノコ測定プロジェクト測定結果のまとめ(1)

- 1) 放射能汚染地に指定された17都県のうち、東京都・静岡県を除く15県の野生キノコを調査しました。その結果、15県全てのキノコに放射性セシウムの検出がみられました。食品基準値を超えるキノコが確認されたのは、青森県・埼玉県・茨城県・神奈川県を除く11県（岩手県・秋田県・山形県・宮城県・福島県・栃木県・群馬県・山梨県・新潟県・千葉県・長野県）でした。
- 2) 全測定キノコ39品目・177件のうち、放射性セシウムが検出されたのは85%で、食品基準値100 Bq/kgを超えたものは24%でした。最大値は福島県二本松市のコウタケで3182 Bq/kgでした。その他基準値超過があったのは、チチタケ・ウラベニホテイシメジ・アカヤマドリ・サクラシメジ・ハナイグチでした。
- 3) 全測定キノコを菌種別にみると、90%が菌根菌、8%が腐生菌で、菌種不明が2%でした。食品基準値を超えたキノコはすべて菌根菌で、放射性セシウム濃度が菌根菌に高いことは2020年以降のキノコ測定プロジェクトと同様の傾向でした。なお、食品基準超過率も、2020年以降21%、23%、24%、22%、24%と、ほぼ同水準で推移していました。

2024キノコ測定プロジェクト測定結果のまとめ(2)

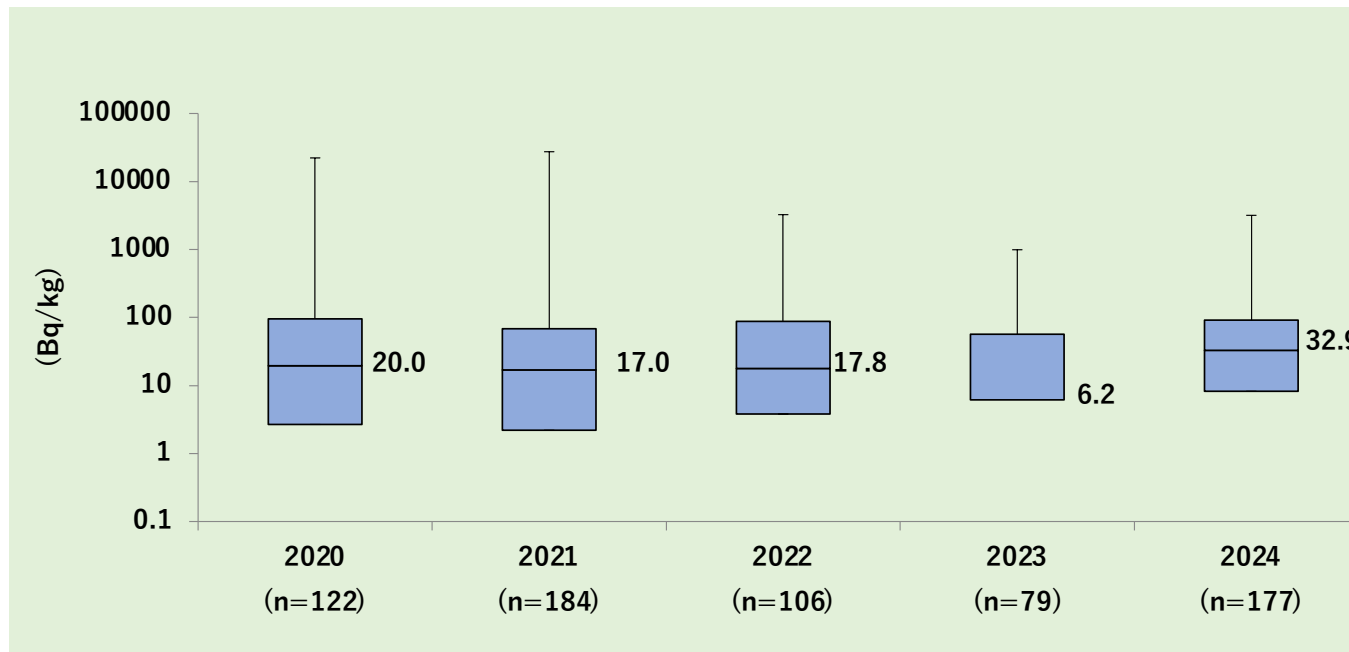
4) 食品基準値を超えたキノコは6品目・42件でした。唯一の縁故品1件は出荷制限有りの地域のもので、汚染状況確認のための依頼測定品でした。その他41件の基準値超過キノコは全てネット購入品で、出荷制限のある地域からのものが1件でした。出荷制限が市町村単位で出されているにもかかわらず採取地が県名までの情報しかないため出荷制限不明のものが30件で、**出荷制限のない地域のキノコが10件でした。依然として、キノコの放射能汚染に対する出荷者や当該地域の行政の監視・対応の甘さが推測されました。**

今回は、**出荷制限不明の地域のキノコが30件もあり、その内28件はいずれもメルカリサイトのネット購入品**で採取地の特定が出来ませんでした。今もネット購入品の放射性セシウム濃度には注意が必要であることが示唆され、採取地の市町村単位までの記載の義務化が必要と考えます。

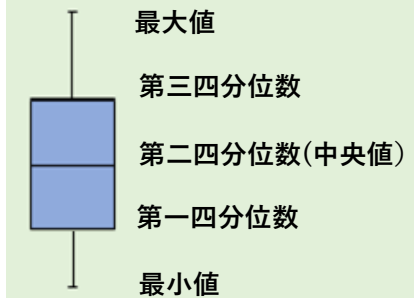
なお、全測定数の38%をコウタケが占めていました。結果的に、コウタケは、52%に食品基準値超過が見られ、他のキノコと比べて9倍ほど高い基準値超過比率を示しました。生と乾燥品の放射性セシウム濃度には統計的な有意差はありませんでした。

* 調査結果が食品基準値超えの場合は、当該測定室は所在する保健所に届け出て、当該産地の自治体の放射能監視・対応を促しています。その流れで、ネット主催者・出荷者、店舗・出荷者への注意喚起も行われますが、徹底されていないのが現状です。本プロジェクトの訴えに対する行政の対応が自治体によって異なるなど、問題点も明らかになってきました。

みんなのデータサイトキノコ測定プロジェクト測定結果 放射性セシウム濃度経年推移



* 箱ひげ図の見方



四分位数とは、データを小さい順に並べて4等分した時の境界の数値。

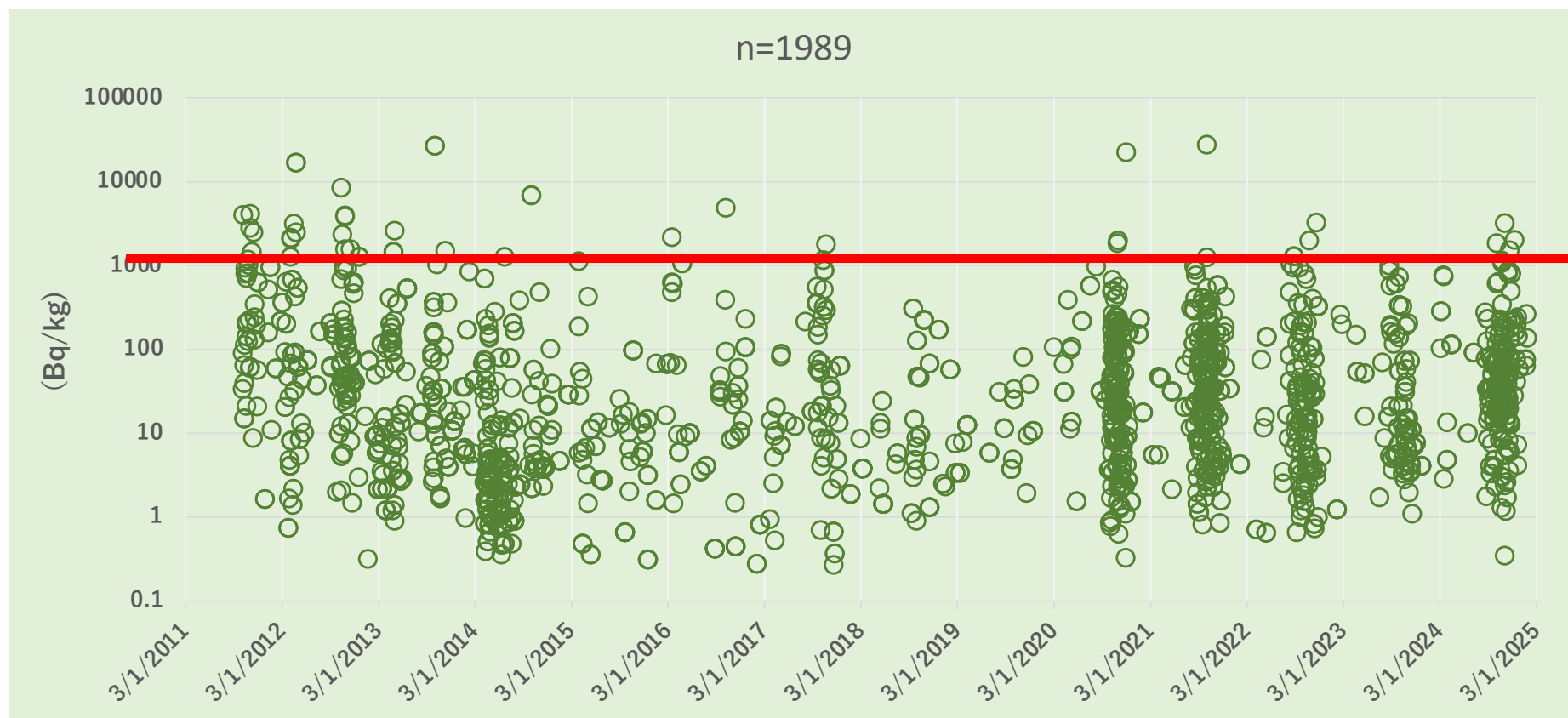
検出下限値未満は「0」として処理しました。

縦軸が対数表示のため、最小値「0」は表示出来ません。

なお、2023年の第一四分位数が「0」であったため、箱の下端が中央値です。

2020年から24年までの5年間の測定結果をグラフにしました。
野生キノコの放射性セシウム濃度範囲にはほとんど変化がありません。
2023年の中央値が若干低目ですが、統計的な有意差はありませんでした。

みんなのデータサイト：データベース中全キノコの放射性セシウム濃度の推移





最後に

野生キノコの放射性セシウム濃度は、半減期（2年）の短いセシウム-134が1%にまで物理的に減衰した後も、半減期（30年）の長いセシウム-137は事故による放出時の72%が環境中に残存し、とりわけ放射性プルームによって拡散したままの山野の放射能汚染状況を反映していました。

野生キノコは自然からの贈り物です。
日本人はそんなキノコが大好きです。

売り手はもちろん、消費者も野生キノコの汚染状況には注意を払い、疑わしきは「測る」を基本にしていただきたいと思います。無用な被ばくは避けましょう。

お近くの市民放射能測定所にご相談ください。